

復興を誓って、前へ。
がんばろう 七ヶ浜!!

七ヶ浜町の復興概況



□宮城県七ヶ浜町の概況 [令和3年2月1日現在]

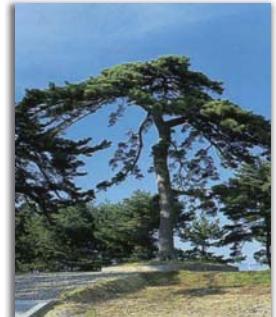
- ・面積 13.19k m² (東北・北海道最小)
- ・人口 18,432人 (東日本大震災前 平成23年3月1日現在 20,855人 △2,423人)
- ・世帯数 6,759世帯 (東日本大震災前 平成23年3月1日現在 6,568世帯 191世帯増)
- ・高齢化率 30.7% (令和2年4月1日現在)
- ・少子率 10.8% (令和2年4月1日現在)
- ・産業別人口割合 (平成27年国勢調査時)
 第1次産業 3.0% 第2次産業 27.0% 第3次産業 70.0%
- ・仮設住宅 H29.3.31供与終了
(最大: 応急仮設住宅7団地 421戸・民間みなし仮設住宅218戸)
- ・姉妹都市 アメリカ合衆国マサチューセッツ州プリマス
- ・友好の町 山形県朝日町
- ・パートナーシティ
 神奈川県鎌倉市

□目次

- 1 東日本大震災による七ヶ浜町の被災状況
- 2 応急仮設住宅
- 3 震災復興計画
- 4 住宅復興・地域復興
- 5 都市公園(津波防災緑地)・治山(潮害防備保安林)事業・地区広場
- 6 産業復興
- 7 産業誘導・観光促進
- 8 被災から復興へ 比較写真



町花 はまぎく



町木 くろまつ

1 東日本大震災による七ヶ浜町の被災状況

□地震発生

平成23年3月11日（金）14時46分頃（震度5強）

※宮城県（最大）震度【7】栗原市

その他宮城・東北を中心に北海道から九州にかけて地震発生

□津波発生

津波浸水高：12.1m（同日15時51分第1波到達）

□津波浸水面積

4.8 km²（町面積の36.4%）

□避難者数（最多数）

6,143名

□避難所数（最多数）

36ヶ所

□死者

七ヶ浜町民で亡くなった方	94名
七ヶ浜町で亡くなった町外の方	12名
行方不明者（死亡届出者含む）	2名
震災関連死	3名
計	111名

□住家被害

流失・全壊	674世帯
大規模半壊	237世帯
半壊	413世帯
一部損壊	2,605世帯
計	3,929世帯



汐見台南から菖蒲田方面：七ヶ浜町震災記録集 次代への伝承より

□東日本大震災による津波浸水域 [本町の36.4%が浸水]



県道まで津波が到達（吉田浜）

8.6m
(遡上高)

2.5km



平成23年3月27日撮影（自衛隊提供）太平洋から菖蒲田浜・汐見台南方面

1 東日本大震災による七ヶ浜町の被災状況



湊浜地区



松ヶ浜地区



菖蒲田浜地区



花渕浜地区



吉田浜地区



代ヶ崎浜地区



汐見台地区



避難所（松ヶ浜小学校）



自衛隊による捜索活動



消防団による捜索活動



給水活動の様子



ボランティア活動の様子



海拔約 12m の避難所も被災



屋根に打ち上げられた船



全壊した七ヶ浜中学校



隣接する製油所の火災

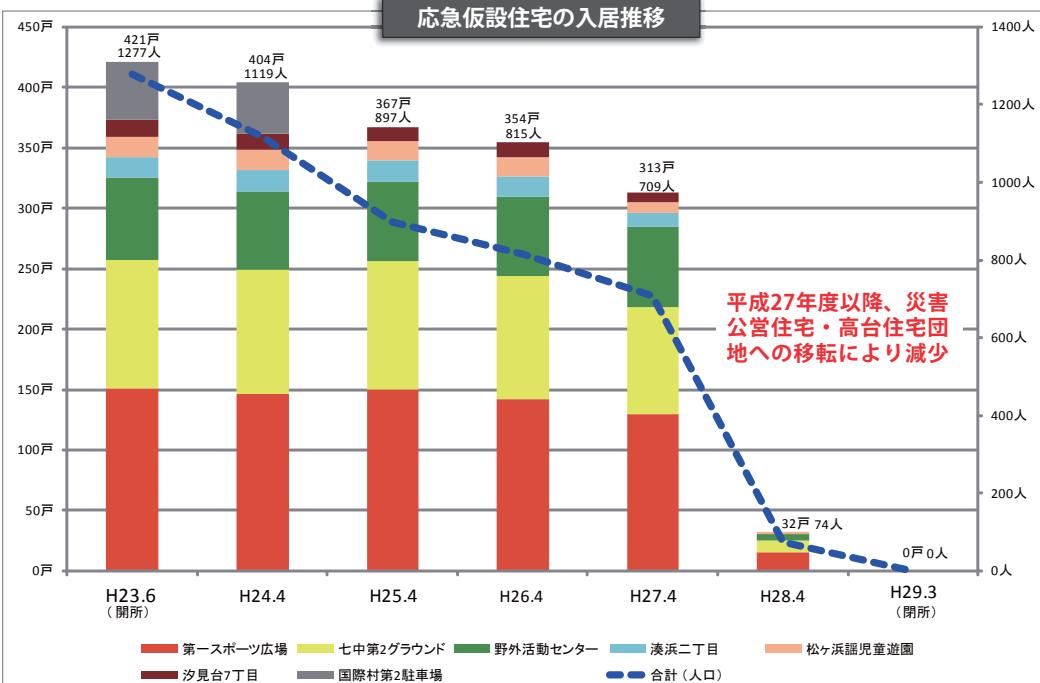
2 応急仮設住宅

□震災から100日目に避難所閉鎖～生活が避難所から応急仮設住宅へ～

■応急仮設住宅入居状況（平成 23 年 6 月 18 日時点）

右図位置	設置箇所	戸数	タイプ別内訳			着工日	完成日	入居開始日
			1DK	2DK	3DK			
①	第一スポーツ広場	115	24	67	24	3月28日	4月28日	5月8日
		36	—	24	12	4月14日	5月18日	5月20日
②	七ヶ浜中学校 第2グラウンド	106	46	29	31	4月22日	5月22日	5月29日
③	野外活動センター	48	—	48	—	4月24日	5月22日	6月5日
		20	—	20	—	4月24日	5月22日	6月11日
④	湊浜二丁目	17	—	17	—	4月26日	5月21日	6月5日
⑤	松ヶ浜謡児童遊園	17	—	17	—	4月28日	5月20日	6月11日
⑥	汐見台7丁目	14	5	4	5	5月6日	5月27日	6月11日
⑦	七ヶ浜国際村 第二駐車場	48	21	6	21	5月6日	6月2日	6月18日
	合計	421	96	232	93	震災から100日目の平成23年6月18日 応急仮設住宅全世界帯入居		

震災から100日目の平成23年6月18日 応急仮設住宅全世帯入居



□震災から6年目の平成29年3月31日に応急仮設住宅（民間みなし仮設住宅含む）の供与終了

□応急仮設住宅の集約解体方針

- ・七ヶ浜国際村第二駐車場
高台住宅団地の整備のため、集約移転後解体
(平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月)
 - ・第一スポーツ広場、七ヶ浜中学校第 2 グラウンド
平成 28 年 4 月～5 月 野外活動センターに集約移転
(解体：平成 28 年 7 月着工～12 月完了)
 - ・湊浜二丁目、松ヶ浜謡児童遊園、汐見台 7 丁目
集約移転せず全世界退去
(解体：平成 28 年 8 月着工～10 月完了)
 - ・野外活動センター
68 戸中 35 戸先行解体、残りは供与終了後に解体
(解体(先行)：平成 28 年 8 月着工～10 月完了)

（解体（残り）：平成29年4月）

□民間みなし賃貸住宅も供与終了
最大入居 218 戸 764 人（平成 24 年 2 月 13 日時点）
平成 29 年 3 月 31 日をもって供与が終了した。

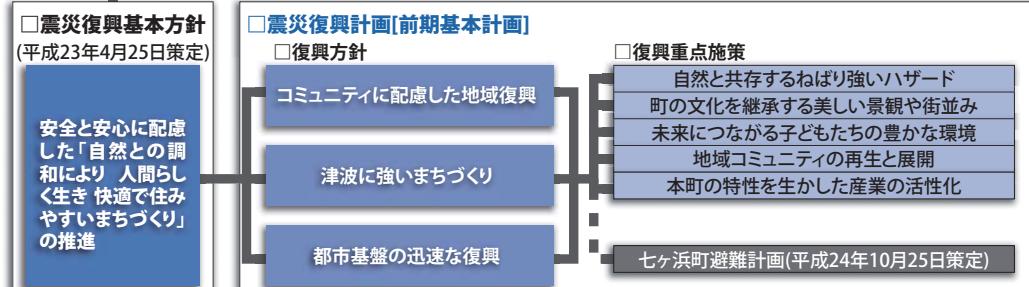


解体工事（七ヶ浜中学校第2グラウンド）

3 震災復興計画

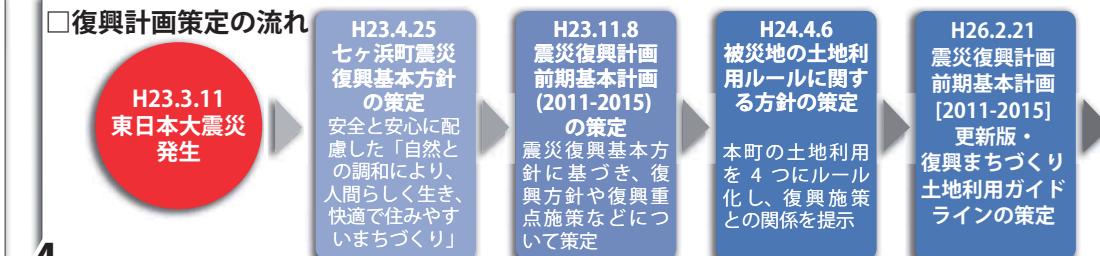
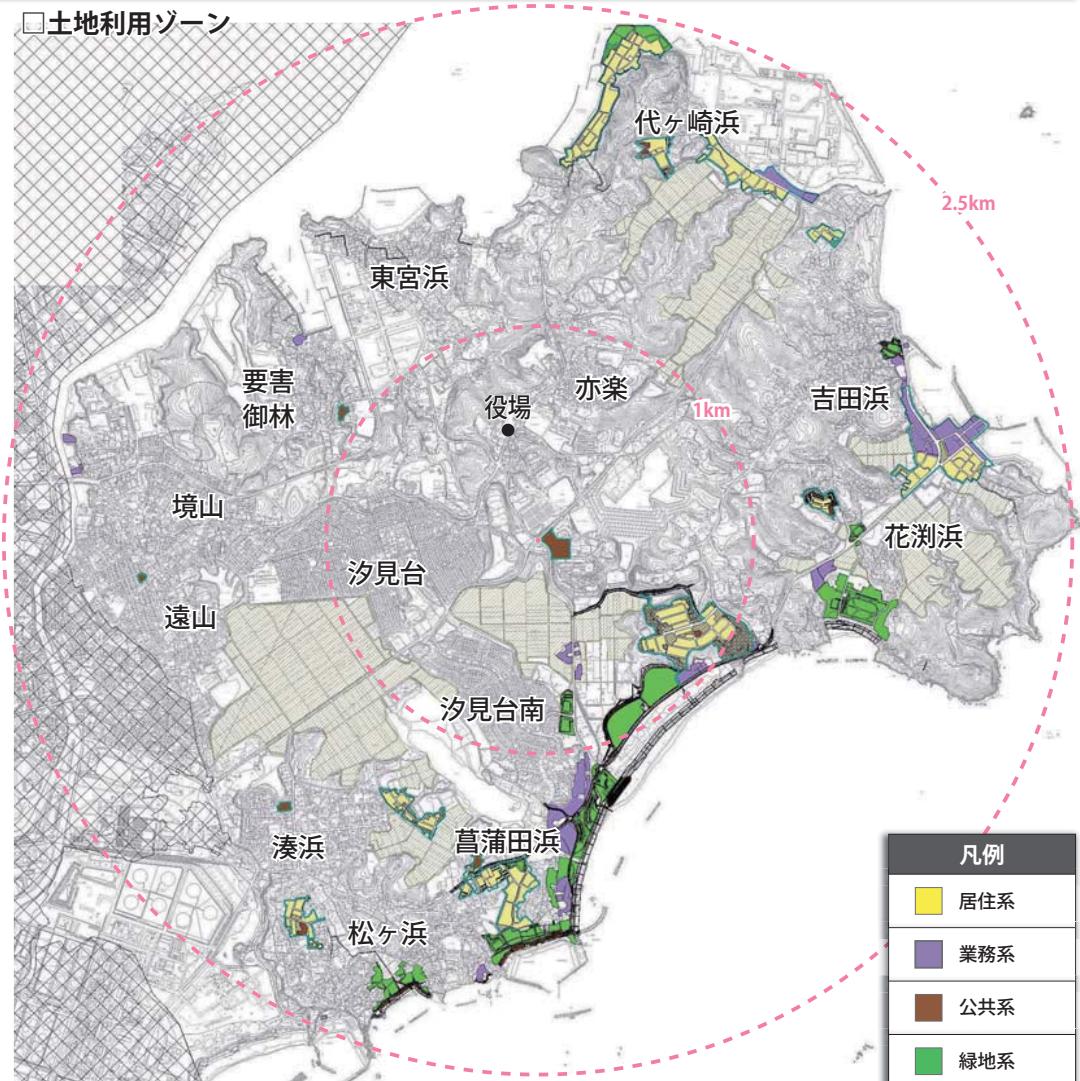
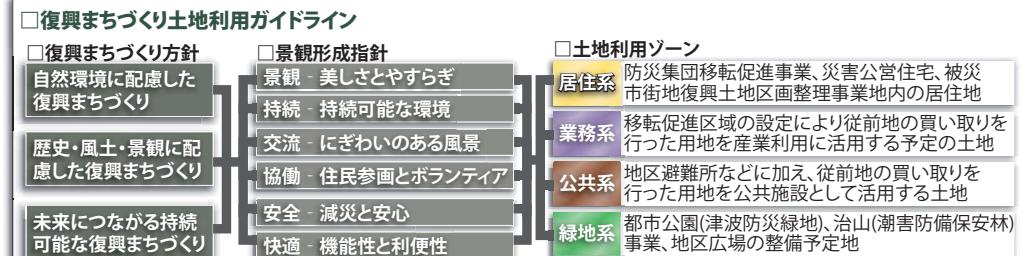
震災復興計画は、平成 22 年度に策定した長期総合計画 (2011-2020) に盛り込まれたまちづくりの基本理念を踏まえながら、東日本大震災からの復興という新たな施策へ取り組むために、平成 23 年 11 月に策定しました。平成 26 年 2 月には、改訂版にあたる、前期基本計画 [2011-2015] 更新版と、「復興まちづくり土地利用ガイドライン」を策定しました。

□長期総合計画・震災復興計画の構成



土地利用ルール [町全体面積 1,327ha]	面積 (ha) (比率 %)	土地利用ルールの説明	現地 再建	高台住 宅団地	災害公営 住宅	地図
レッドゾーン (津波浸水域)	159.1 (12.0)	災害危険区域 (建築基準法第 39 条) を指定して、居住用の建物の建築が出来ないよう建築制限	×	○	○	
イエローゾーン (津波浸水域)	22.5 ^{※1} (1.7)	被災市街地復興土地区画整理事業の対象エリア	○	○	○	
ブルーゾーン (津波浸水域)	301.4 (22.7)	現地再建を想定したエリア	○	×	○	
指定なし (非津波浸水域)	844.0 (63.6)	現地再建を想定したエリア	○	×	○	

※1 レッドゾーン重複分 3.5ha を含みません。 ※ 上記の面積および図面は土地利用ルールに関する方針の策定時点となります。



4 住宅復興・地域復興

被災直後から、被災者の多くの声として挙げられたのは、「既存の地区内に高台住宅団地や災害公営住宅を整備してほしい」という意見でした。津波被害を免れた住民の方からも、「地域のきずな」を確保する観点から、地域内の住宅復興を望む声が寄せられ、既存コミュニティに配慮した整備箇所の設定を行いました。

事業区分	地区名	工事完了
防災集団移転 促進事業 [5地区 194戸]	①松ヶ浜西原地区(13戸)	平成 26年 3月
	②菖蒲田浜中田地区(30戸)	平成 26年 6月
	③笹山地区(128戸)	平成 27年 3月
	④吉田浜台地区(9戸)	平成 26年 9月
	⑤代ヶ崎浜立花地区(14戸)	平成 26年 9月
災害公営住宅 整備事業 [5地区 212戸]	①松ヶ浜地区(32戸)	平成 27年 3月
	②菖蒲田浜地区(100戸)	平成 27年 10月
	③花渕浜地区(50戸)	平成 27年 12月
	④吉田浜地区(6戸)	平成 27年 3月
	⑤代ヶ崎浜地区(24戸)	平成 27年 12月
被災市街地 復興土地地区画 整理事業 [4地区 26ha]	①菖蒲田浜地区(4.1ha)	平成 30年 7月
	②花渕浜地区(9.8ha)	令和 元年 5月
	③代ヶ崎浜 A地区(4.7ha)	平成 30年 3月
	④代ヶ崎浜 B地区(7.4ha)	令和 2年 5月
地区避難所等 公共施設 整備事業	①湊浜地区避難所	平成 27年 1月
	②松ヶ浜地区避難所	平成 27年 2月
	③菖蒲田浜地区避難所	平成 27年 7月
	④笹山地区避難所	平成 27年 10月
	⑤花渕浜地区避難所	平成 27年 11月
	⑥代ヶ崎浜地区避難所	平成 27年 5月
	⑦要害・御林地区避難所	平成 27年 8月
	⑧遠山地区避難所	平成 26年 9月
	⑨防災拠点施設(生涯学習センター内)	平成 27年 11月
	⑩菖蒲田浜パトロールセンター	平成 29年 2月
	⑪遠山保育所	平成 25年 4月
	⑫学校給食センター	平成 26年 2月
	⑬テニス・フットサルコート	平成 25年 12月
	⑭七ヶ浜中学校	平成 27年 3月
	⑮観光交流センター	平成 30年 11月

※工事完了

- ・高台住宅団地は、住宅団地造成完了（工事完了ではない）の月
 - ・地区避難所は、工事完了月（建築及び外構工事を含めすべての工事完了）
 - ・災害公営住宅は、建築完了後県より引き渡しを受けた月（入居開始は、松ヶ浜・吉田浜4月、菖蒲田浜10月、花潟浜・代ヶ崎浜12月）

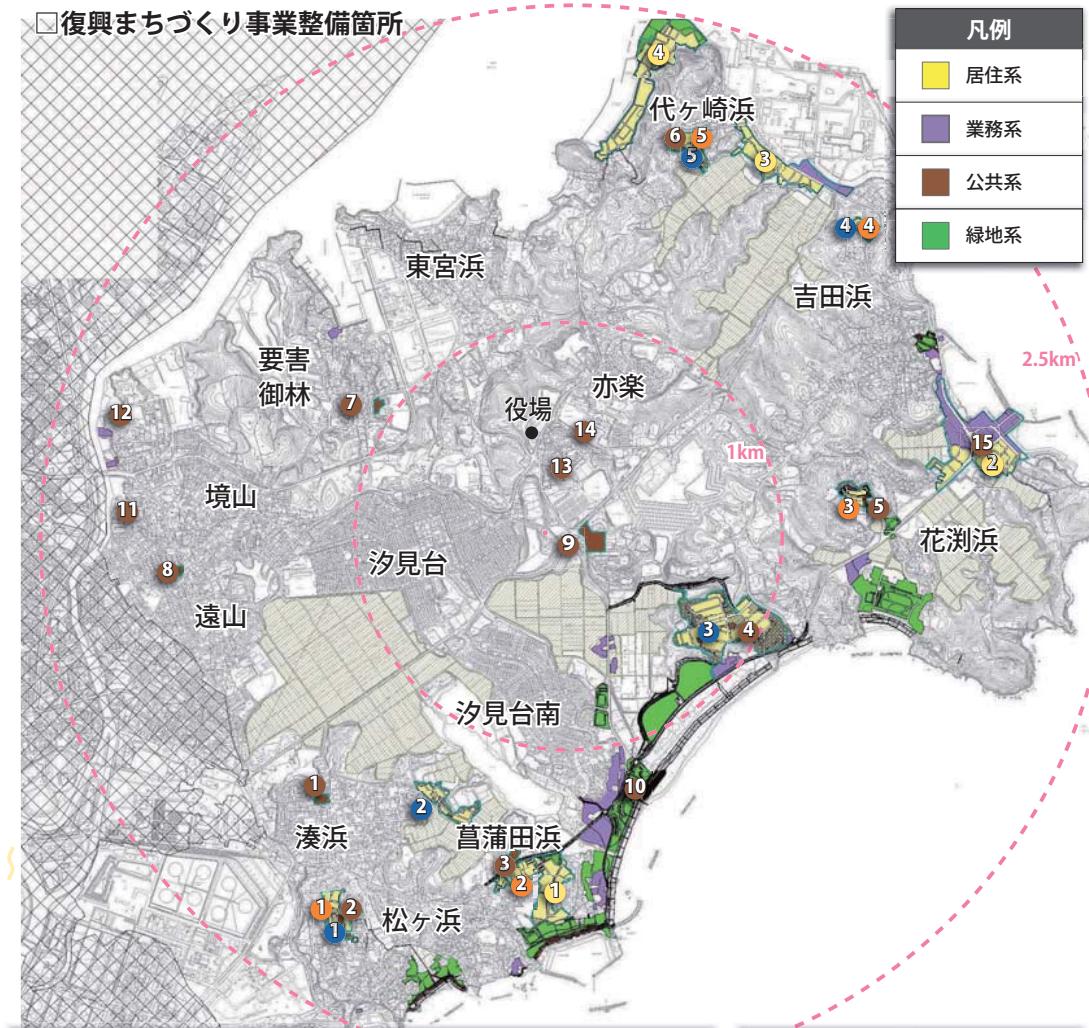


④ 土地区画整理事業（代ヶ崎浜B地区）

5

③ 災害公営住宅（花渕浜地区）

15 観光交流センター (H30.11.11 ~)



5 都市公園（津波防災緑地）・治山（潮害防備保安林）事業・地区広場

□緑地系の整備方針

□都市公園（津波防災緑地）事業・治山（潮害防備保安林）事業

海浜部の低平地に位置する移転元地の一部などを利用した都市公園（津波防災緑地）事業や治山事業（潮害防備保安林）の整備により、津波エネルギーの減衰や津波到達時間の遅延、漂流物の捕捉により背後に位置する住宅地の安全性を高めるほか、居住系や業務系との連携をはかり、地域のコミュニティ拠点やにぎわい拠点を確保します。

□地区広場整備事業

海浜部の低平地に位置する移転元地の一部などを利用した地区広場の整備により、隣接する居住系や業務系との連携をはかり、地域のコミュニティ拠点やにぎわい拠点を確保します。

□都市公園（津波防災緑地）事業

（単位：ha）

図	箇所名	工事完了	面積
	菖蒲田浜海浜公園	平成 29 年度	4.3
①	菖蒲田浜海浜公園	平成 29 年 1 月	(1.1)
②	菖蒲田浜海浜公園南側	平成 30 年 3 月	(2.1)
③	汐見台南	平成 28 年 6 月	(1.1)
④	菖蒲田漁港緑地	平成 31 年 1 月	2.5
⑤	諏訪前緑地	平成 28 年 5 月	0.3
⑥	表浜緑地	平成 31 年 3 月	5.0
⑦	割山緑地	平成 28 年 5 月	0.5
計			12.6

□治山（潮害防備保安林）事業

（単位：ha）

図	箇所名	工事完了	面積
⑧	松ヶ浜潮害防備保安林	平成 27 年 11 月	1.7
⑨	菖蒲田浜潮害防備保安林	平成 28 年 5 月	1.0
⑩	代ヶ崎浜潮害防備保安林	令和 2 年 7 月	0.7
計			3.4

□地区広場整備事業

（単位：ha）

図	箇所名	工事完了	面積
⑪	吉田浜地区広場	平成 28 年 6 月	0.6
⑫	代ヶ崎浜地区広場	令和 2 年 5 月	0.6
⑬	長須賀多目的広場	令和 3 年 3 月予定	5.8
計			7.0

① 菖蒲田浜海浜公園と県道周辺



① 菖蒲田浜海浜公園 (H29.1 完了)



② 菖蒲田浜海浜公園南側 (H30.3 完了)



③ 菖蒲田浜海浜公園 (汐見台南) (H28.6 完了)



④ 菖蒲田漁港緑地 (H31.1 完了)



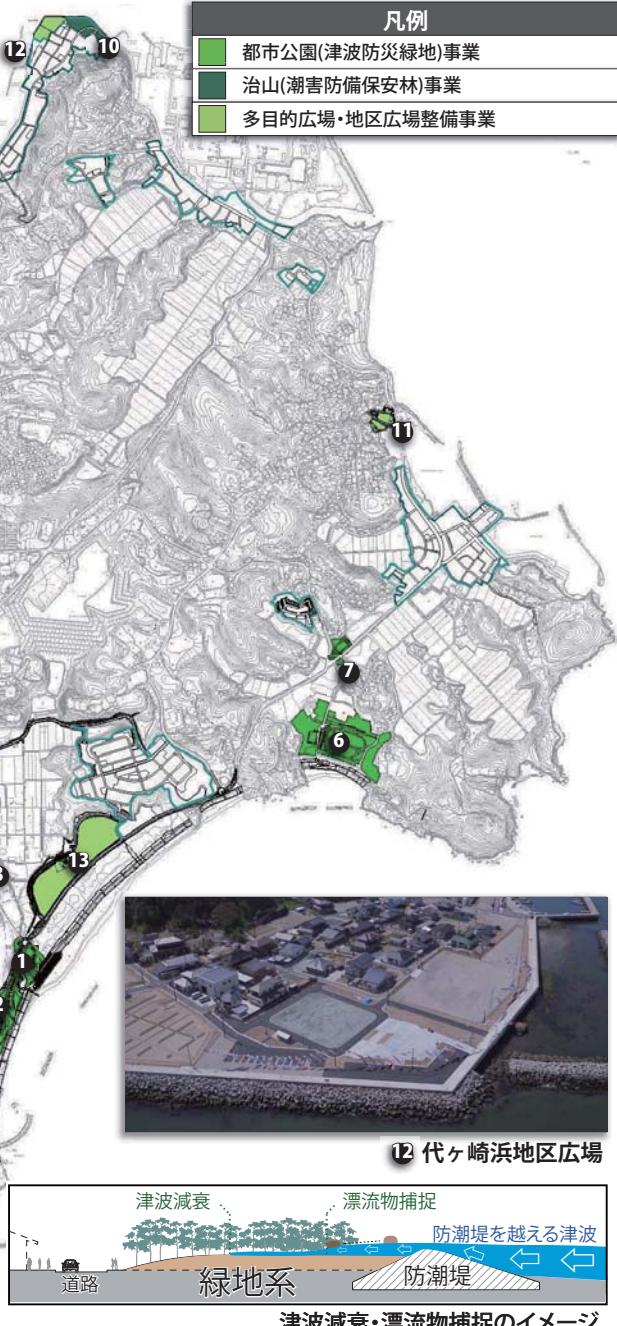
⑤ 諏訪前緑地 (H28.5 完了)



⑥ 表浜緑地 (H31.3 完了)



⑦ 割山緑地 (H28.5 完了)



6 産業復興

本町の基幹産業である水産業や稻作などの農業は、東日本大震災による津波の被害により、壊滅的なダメージを受けました。雇用機会の確保にとどまらず、従事する方の生きがい対策や、街並みと調和した水田の風景など、第一次産業を中心とした産業の復興は欠かせないものです。産業基盤の迅速な復興により、本町の特性を生かした産業の活性化に住民と共に取り組みます。

□水産業基盤の復興

被災した海苔生産施設を共同利用として再整備することにより、水産業の共同化を推進し、雇用機会の確保を図ります。

- ・H24.10.30 海苔生産共同利用施設 10棟完成
- ・H24.11 海苔生産再開、海苔入札参加
- ・H25.10.19 県漁協七ヶ浜町水産振興センター完成

□本町の水産業水揚げ高の回復状況（宮城県漁業協同組合資料）

上段：収穫量：海苔（枚）魚介類（トン） 下段：売上高（千円）

年度	海苔	魚介類	合計
H29	93,665,600	771	(H20比 102.3%)
	1,065,035	604,310	1,669,345
H28	107,063,800	606	(H20比 117.2%)
	1,359,446	552,712	1,912,158
H27	107,838,500	710	(H20比 94.6%)
	1,065,221	477,205	1,542,426
H26	113,724,000	522	(H20比 83.4%)
	1,013,714	346,600	1,360,314
H25	99,162,800	301	(H20比 65.0%)
	788,194	272,908	1,061,102
H24	103,131,400	192	(H20比 59.8%)
	750,269	224,398	974,667
H23	14,989,000	184	(H20比 23.2%)
	152,503	225,708	378,211
H20 (震災前)	150,763,400	372	(100%)
	1,228,491	402,534	1,631,025



① 海苔生産共同利用施設 (H24.10)

□農業の回復と再生

被災した農地等について、農山漁村地域復興基盤総合整備事業等による復旧復興に取り組んでいます。

- ・農山漁村地域復興基盤総合整備事業（区画整理、農業用揚排水施設整備、暗渠排水、農業施設等用地整備） 143 ヘクタール（農地 122 ヘクタール）
- ・被災地域農業復興総合支援事業（乾燥調製施設、農業用機械、格納庫、育苗ハウス）

□本町の主な農作物の作付面積（七ヶ浜町地域農業推進協議会資料）

年度	水稻	大豆	合計
H29	69.86	17.17	(H21比 97.7%) 87.03
H28	84.45	17.76	(H21比 114.7%) 102.21
H27	73.98	11.94	(H21比 96.4%) 85.92
H26	54.06	1.38	(H21比 62.2%) 55.44
H25	51.51	18.47	(H21比 78.5%) 69.98
H24	1.24	4.80	(H21比 6.8%) 6.04
H21 (震災前)	76.61	12.50	89.11



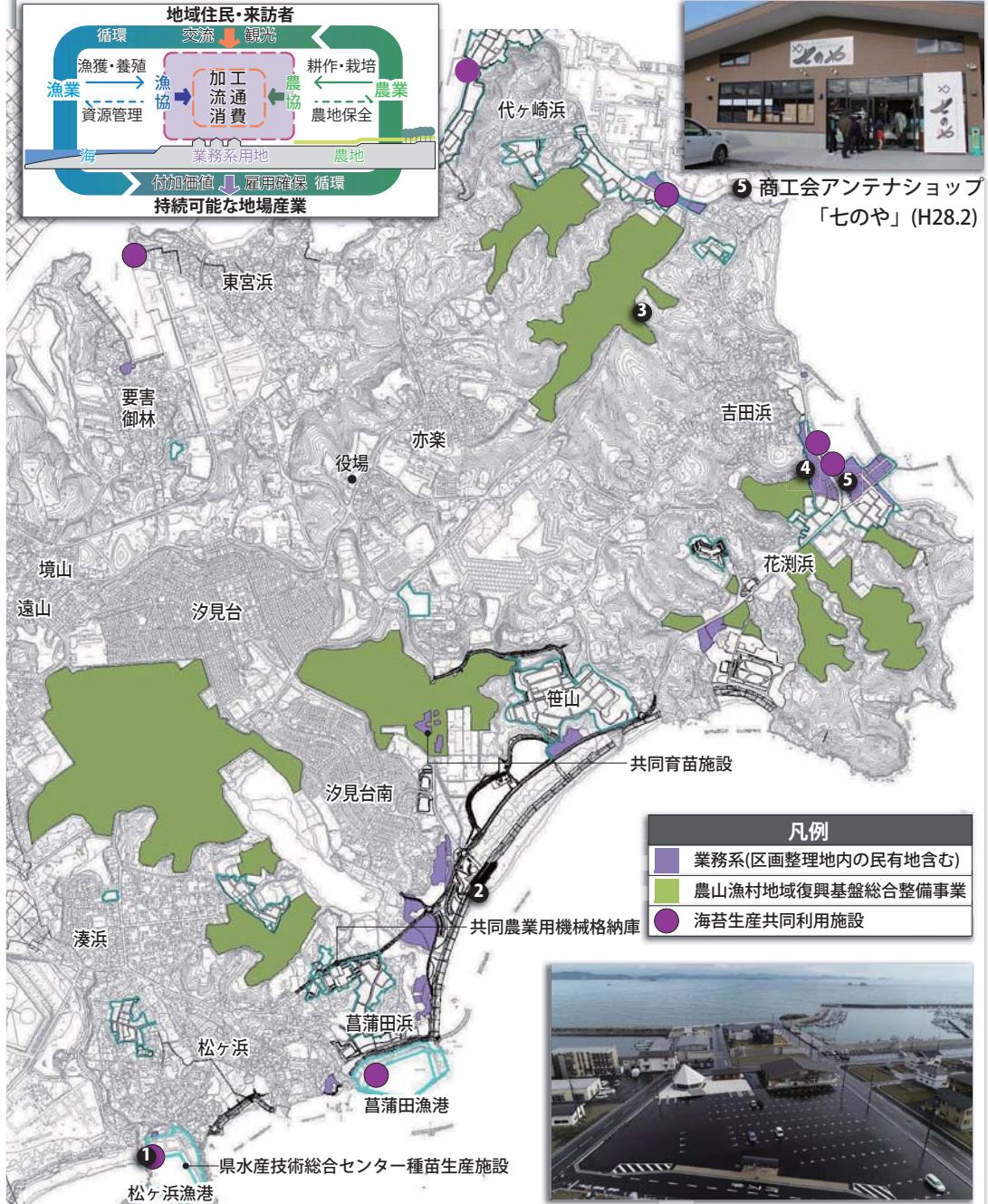
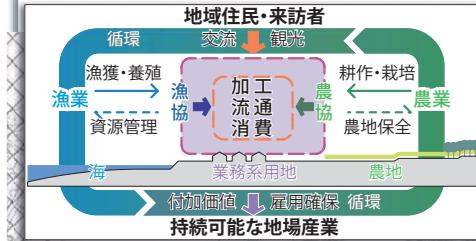
③ 共同乾燥調製施設（ミニライスセンター）(H26.11)

□産業拠点の形成による6次化産業の推進

水産物・農産物の6次化事業（生産⇒加工⇒販売）を民間活力により推進し、雇用機会の確保と産業振興を図ります。



④ 水産業共同利用施設（焼海苔加工施設）(H28.9)



⑤ 商工会アンテナショップ
「七のや」(H28.2)

7 産業誘導・観光促進

□業務系の産業誘導方針

業務系ゾーンは、移転元地を活用し、既存市街地を含む居住系や公共系、緑地系との連携により、復興に資する産業利用を促進するための区域として設定しています。

業務系ゾーンを利用した民間事業者の企業誘致などによる産業誘導により、雇用機会の確保や観光客などの交流人口の増加によるにぎわいを創出し、復興まちづくりを加速化します。

業務系区分 用地区分 産業誘導方針 面積 (ha)

業務系区分	用地区分	産業誘導方針	面積 (ha)
農業生産基盤整備	農業用地	農業生産基盤整備事業の圃場整備による育苗ハウスの整備や、野菜などの農産物の生産	0.6
区画整理業務系	商業用地	地区計画で認められる、第3次産業を中心とした商店、店舗、レストラン、各種サービスのための施設を誘導	0.7
	産業用地	地区計画で認められる、事業所用施設、倉庫、事務所、危険性や環境を悪化させる恐れが非常に少ない工場等を誘導	2.0
移転元地業務系(市街化区域)	商業用地	住居地域の予定建築物として認められる商店、店舗、事務所、レストラン等を誘導	2.2
	工業用地	工業地域の予定建築物として認められる商店、店舗、危険性や環境を悪化させる恐れが非常に少ない工場等を誘導	0.3
移転元地業務系(市街化調整区域)	観光用地	開発許可の観光資源として位置付けられる飲食などの休憩施設や海水浴、サーフィン、ヨット、釣りなどの海の観光に連携する店舗等を誘導	6.3
	産業用地	市街化調整区域に開発許可不要で建築可能な、農林漁業用施設等を誘導	0.8
計			12.9

□移転元地を多目的広場として活用

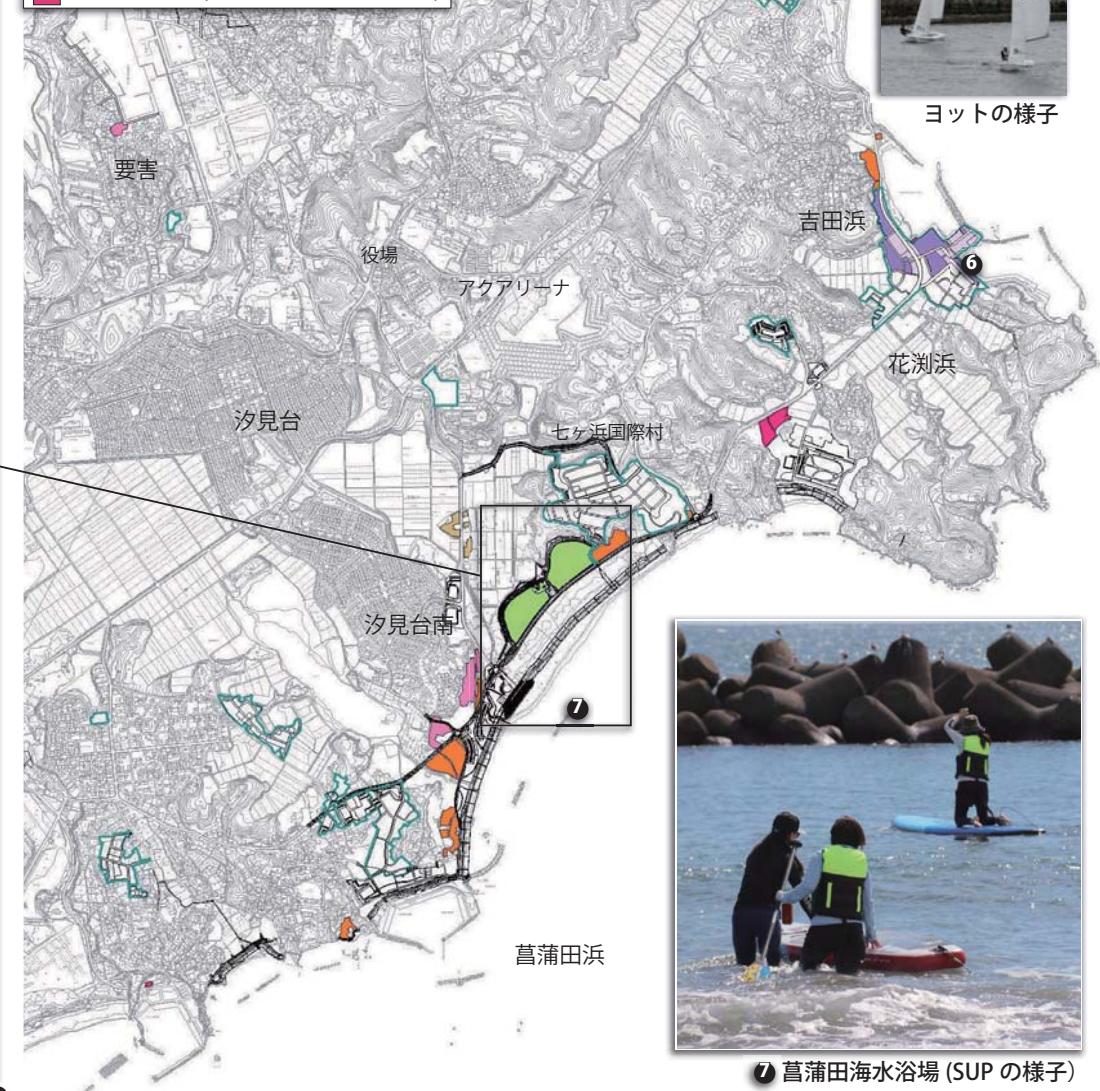
移転元地の観光用地である長須賀エリア周辺(菖蒲田海水浴場背後地)に多目的広場を整備します。

□長須賀エリア周辺



凡例

- 農業生産基盤整備
- 区画整理業務系(商業用地)
- 区画整理業務系(産業用地)
- 移転元地業務系(市街化区域ー商業用地)
- 移転元地業務系(市街化区域ー工業用地)
- 移転元地業務系(市街化調整区域ー観光用地)
- 移転元地業務系(市街化調整区域ー産業用地)



8 被災から復興へ 比較写真

松ヶ浜浜屋敷 周辺 (宮城県の治山事業により防災林の整備)



菖蒲田浜海水浴場 周辺 (平成 28 年 7 月から海水浴場を再開)



菖蒲田浜漁港 周辺 (防潮堤と都市公園 (津波防災緑地) を整備)



菖蒲田浜長砂 周辺 (都市公園 (津波防災緑地) を整備)



花渕浜表浜～花渕浜割山 周辺 (中央：表浜緑地 左側：花渕浜災害公営住宅 を整備)



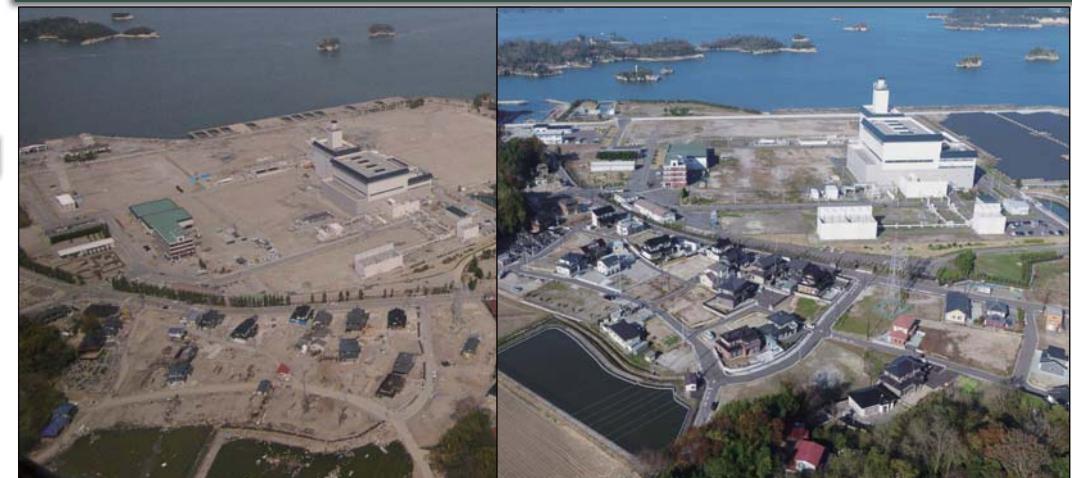
花渕浜館下 周辺 (被災市街地復興土地区画整理事業により再整備)



吉田浜浜屋敷 周辺 (右側：吉田浜地区広場を整備)



代ヶ崎浜向田 周辺 (被災市街地復興土地区画整理事業により再整備)



笹山 周辺 (防災集団移転促進事業により新たな町「笹山」が誕生)

